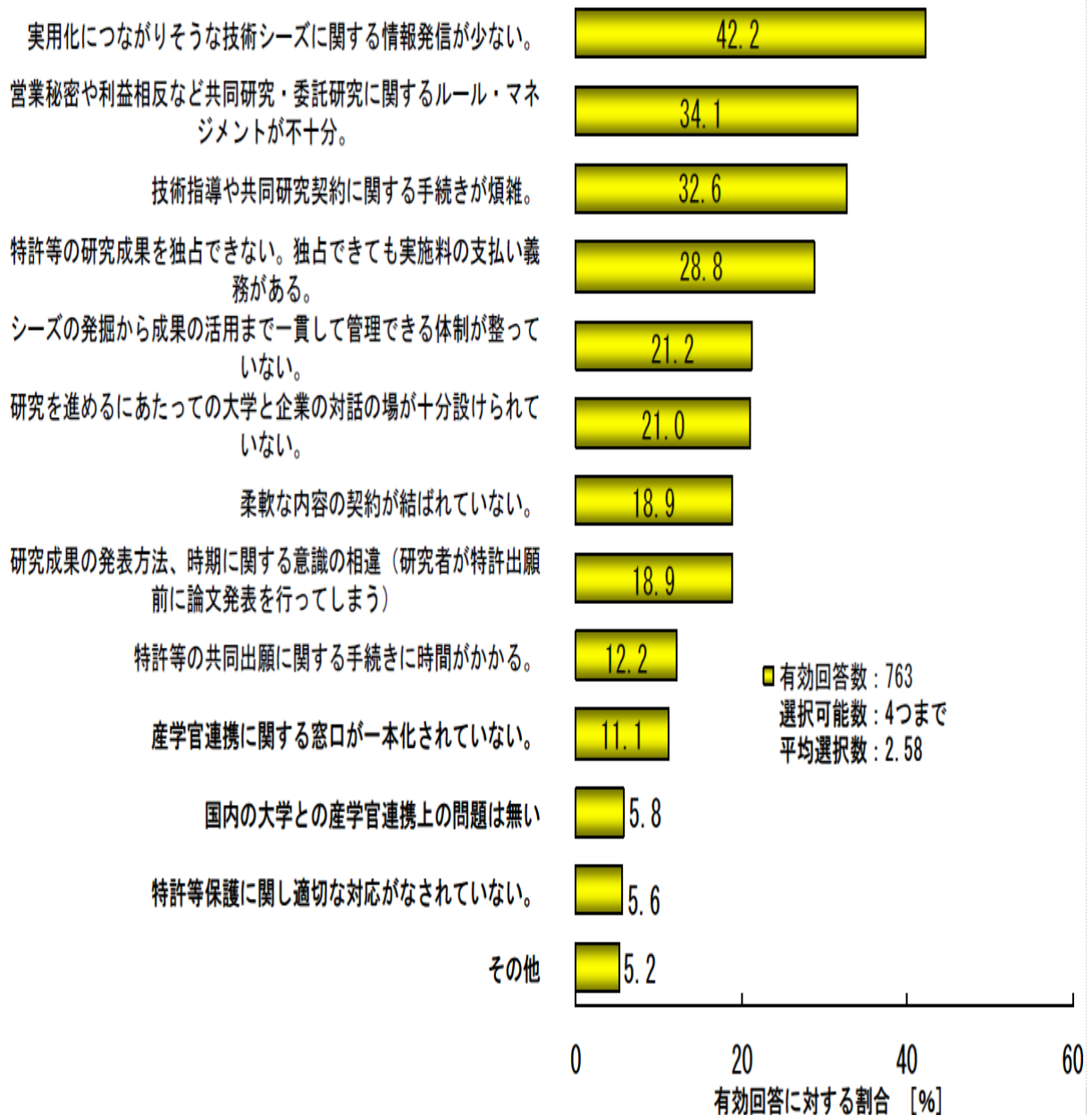


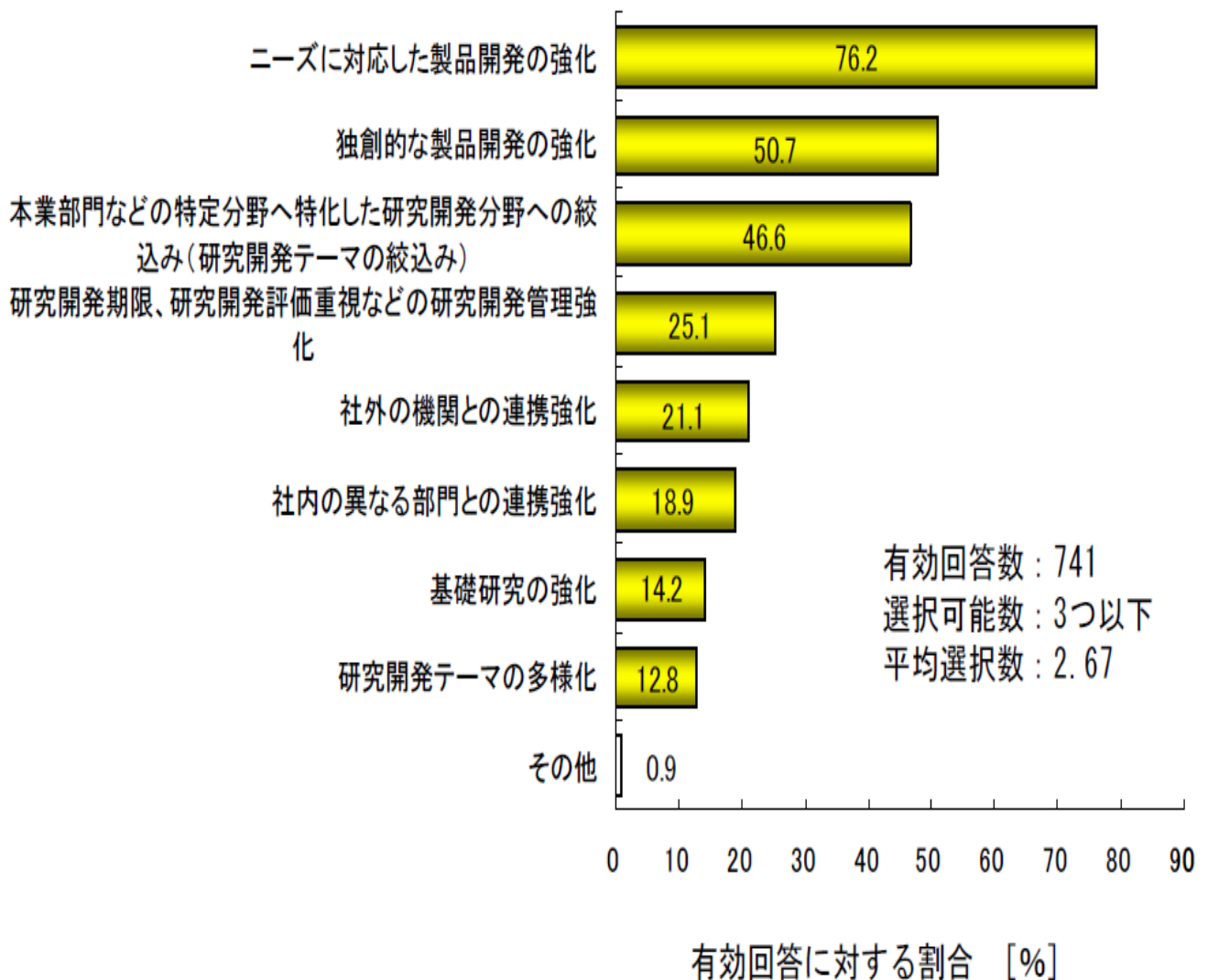
国内の大学との産学連携体制の問題点



（「平成18年度民間企業の研究活動に関する調査報告」（文部科学省）より）

民間企業は、国内の大学との産学連携体制について、「**実用化につながりそうな技術シーズに関する情報発信が少ない**」、「**営業秘密や利益相反など共同研究・委託研究に関するルール・マネジメントが不十分**」、「**技術指導や共同研究契約に関する手続きが煩雑**」という意見が多い。

民間企業の研究開発戦略における重視事項

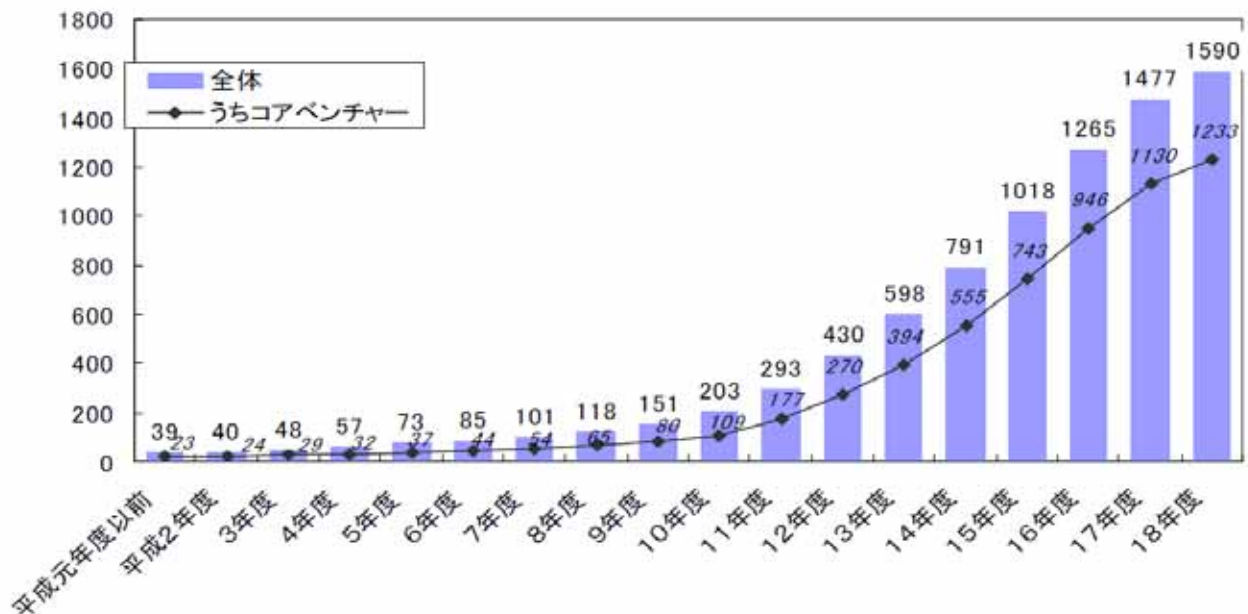


(「平成18年度民間企業の研究活動に関する調査報告」(文部科学省)より)

民間企業は、研究開発戦略において、「**ニーズに対応した製品開発の強化**」、「**独創的な製品開発の強化**」、「**本業部門などの特定分野へ特化した研究開発分野への絞り込み(研究開発テーマの絞り込み)**」などを重視している。

大学発ベンチャーの現状

大学発ベンチャー企業数 (累計)



(コアベンチャー:「大学で生まれた研究成果を基に起業したベンチャー」+「大学と深い関連のある学生ベンチャー」)

(「平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書の概要」(経済産業省)より)

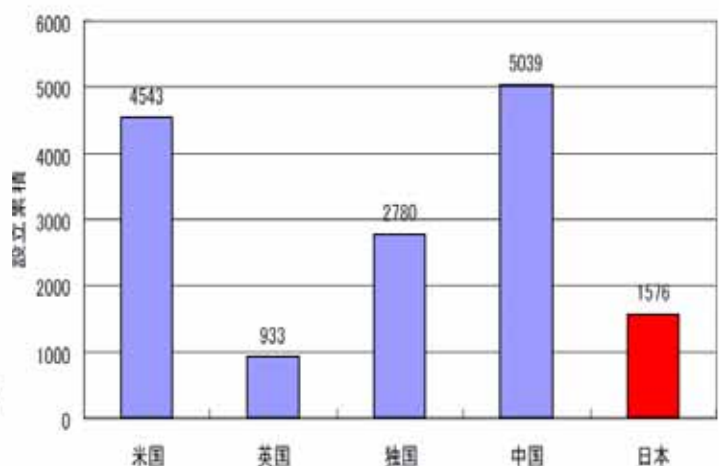
都市圏・地方圏の大学発ベンチャーの増加状況比較

	大学発ベンチャー数	都市圏	地方圏
平成13年度	598社	339社	259社
平成18年度	1,590社	771社	819社
伸び率	約2.7倍	約2.3倍	約3.2倍

地方圏: (東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県・大阪府・京都府・兵庫県) 以外

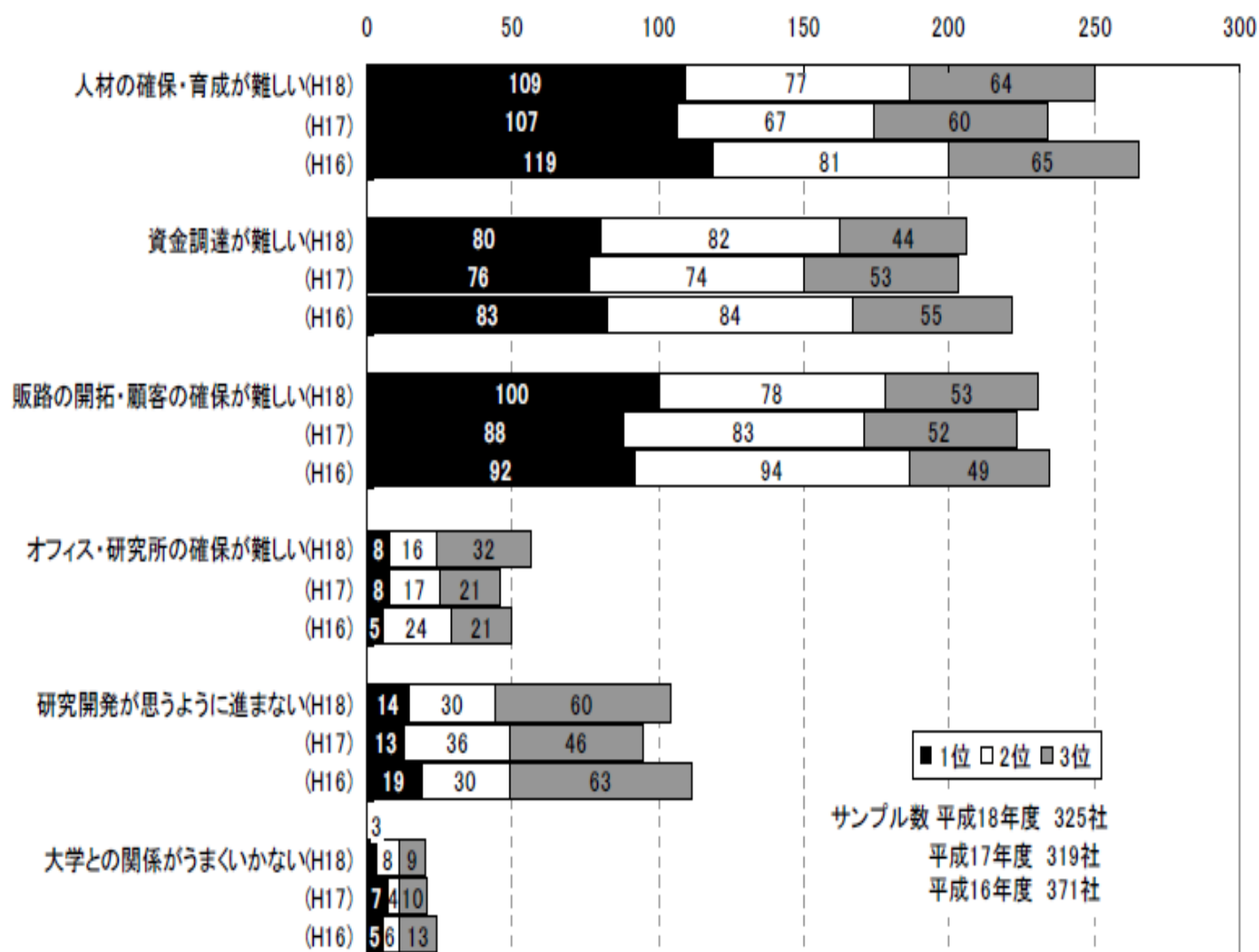
(「平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書の概要」(経済産業省)より)

諸外国との大学発ベンチャー数の比較



(「イノベーションの創出に向けた産学官連携の戦略的な展開に向けて」(審議のまとめ)(平成19年8月)(文部科学省科学技術・学術審議会技術・研究基盤部会産学連携推進委員会)より)

大学発ベンチャーの現在直面する課題

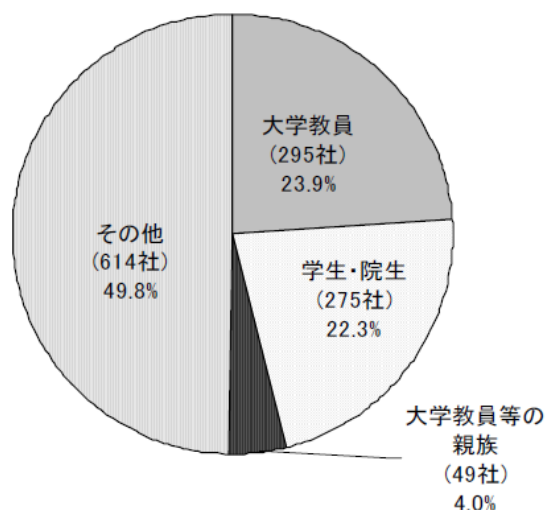


(「平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書の概要」(経済産業省)より)

- 大学発ベンチャーが直面する課題としては、「**人材の確保・育成**」、「**販路開拓・顧客の確保**」、「**資金調達の確保**」が挙げられる。

大学発ベンチャーの人材面での課題

大学発ベンチャーの経営者の構成



右腕の主たる担当業務



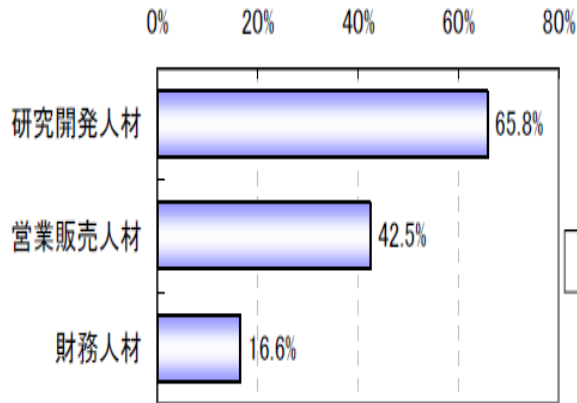
中企庁が中小企業に行った調査では、「右腕」の担当業務は、「営業」が最も多く、次に「財務・経理」となっている。

(「平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書の概要」 (経済産業省) より)

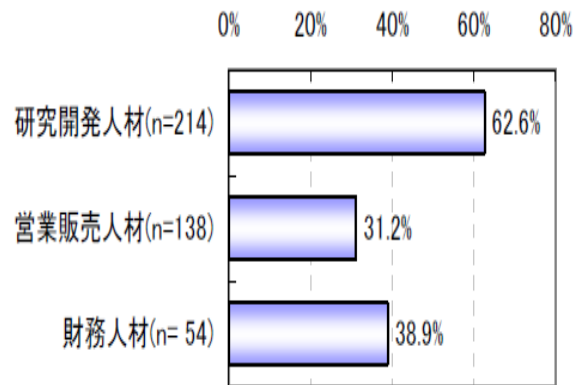
- 大学教員や学生等が大学発ベンチャーの経営者となる例が約5割。
- 一般の中小企業の「右腕」では、「営業」や「財務・経理」を担当することが多いが、大学発ベンチャーでは、「研究開発」を担当している例が多い。

大学発ベンチャーが必要とする人材

現在、獲得ニーズがある人材の割合 (n=325)

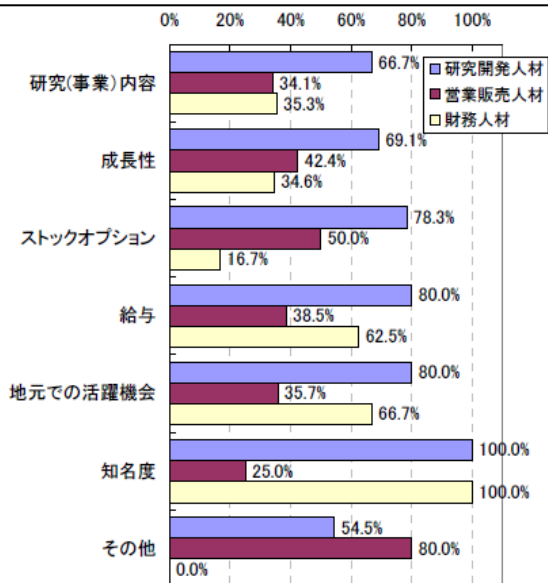


ニーズがあると回答した企業のうち実際獲得できた企業の割合



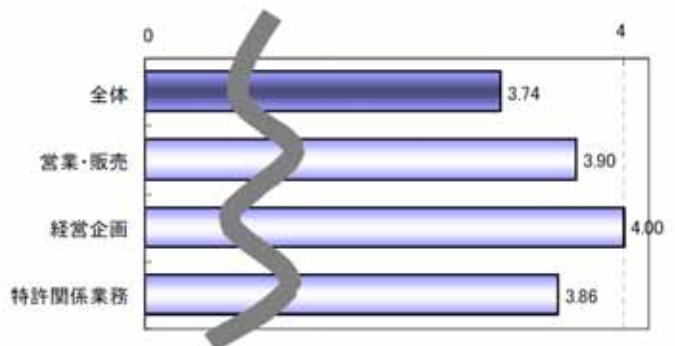
- 大学発ベンチャーが**獲得を希望する人材**は、「**研究開発人材**」が最も多く、**実際獲得できた割合**も約63%という結果となっている。
- 一方、「**営業販売人材**」や「**財務人材**」については、**人材を獲得できた割合**は40%に満たない。

採用時に強調した内容別の人材の獲得割合



ポスドクを採用した実績を持つコア大学発ベンチャーによる満足度

(ポスドクの「研究開発業務」以外の担当業務とその満足度を「最も満足=5点」、「大変不満=1点」として、5段階の尺度にてベンチャーに質問した結果。)



- 大学発ベンチャーに対し、採用される側が重視する事項では「**地元での活躍の機会**」を挙げるケースが多い。
- ポスドク人材は、「**研究開発人材**」としてはもちろん、技術を熟知した人材として「**経営企画**」、「**営業・販売**」等の分野でも**貴重な戦力**となっている。

(「平成18年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書の概要」(経済産業省)より)